

■ 数字で見る東武鉄道

GHG(温室効果ガス)の排出状況について

近年、投資家をはじめとするステークホルダーから環境面の取り組みの指標として注目を集めているGHGの排出状況について、当社におけるGHGの排出状況や削減の取り組み・効果などを「数字で見る東武鉄道」として取りまとめました。当社では投資家、企業、国、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営しているCDPからの調査に対して、気候変動関連の質問書に回答しています。

〈2021年における温室効果ガス等の排出状況について〉

[集計範囲:東武鉄道、東武ステーションサービス、東武インターテック、東武エンジニアリング]

◎CO₂総排出量

269,099t-CO₂

→対前年▲3.14%



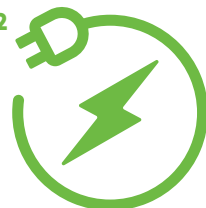
・スコープ1
(石油類、ガス、石炭等の燃焼によるもの)

7,297t-CO₂
(対前年+19.34%)



・スコープ2
(電気・熱供給によるもの)

261,802t-CO₂
(対前年▲3.65%)



◎鉄道事業におけるCO₂排出量削減 (2030年までに約50% (2013年比)削減)



駅照明LED化(一例)

◎売上あたりのCO₂排出量 (2021年) **1.39t-CO₂/百万円** (対前年▲13.68%)



新造車両500系「リパティ」

◎列車走行キロあたりの排出量 (2021年) **0.71t-CO₂/千キロ** (対前年▲4%)

◎CO₂排出量削減対策 (2021年)

- ・鉄道施設照明のLED化
みずほ台駅ほか9駅、南栗橋工場の照明をLED化
年間CO₂排出削減量 約220t-CO₂(一般家庭約70戸分)
- ・省エネルギー型車両の導入
新造18両、改造12両
年間CO₂排出削減量約2,400t-CO₂(一般家庭約830戸分)



改造車両20400型